

国語

第1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和7年度「共通テスト」は、令和4年度入学生から実施された「学習指導要領」を踏まえた初めての試験であった。

共通テストの問題作成方針では、学習指導要領に準拠しつつ、言語を手掛かりとしながら、文章の内容を多面的・多角的な視点から解釈したり、目的や場面等に応じて、情報を的確に理解したり、より効果的な表現に向けて検討、工夫したりする力を求めることとなっている。また、言葉による記録、要約、説明、論述、話し合い等の言語活動を重視することとなっている。

これらを踏まえ、高等学校「国語」教科担当としての立場から、本年度の試験問題を検討した。

なお、評価に当たっては、報告書（本試験）21ページに記載の8つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

第1問 「待ち合わせ」というコミュニケーションが時代とともにどのように変容してきたのかということ、通史的に論じた文章である。論の前提を整理した抽象度の高い前半と、「待ち合わせ」に対する認識の変容を具体例を交えながら時系列でまとめた後半という構造になっており、論の展開がわかりやすいため、論理的な文章を的確に読み取る力や思考する力を確認する上で適切な素材文であった。

問1 漢字・熟語についての基本的な知識・技能を問うている。

問2 「コミュニケーションの不確定性」という社会の問題と「待ち合わせ」との関連について、傍線部前後の内容を的確に読み取る力を問うている。

問3 「待ち合わせという中間的なコミュニケーション」がすべての社会において重要とは言えない理由について、その内容を的確に読み取る力を問うている。

問4 「ハチ公神話」が時代とともに変化していく過程について、傍線部前後の内容を的確に読み取る力を問うている。

問5 受動的に「耐える」ことから積極的に「戯れる」ことへと変化した「待ち合わせ」というコミュニケーションについて、その内容を的確に読み取る力を問うている。

問6 表現上及び構成上の特徴やその効果について、的確に理解する力を問うている。

第2問 「私」の心情描写を中心としながら、社会に上手く馴染めず仕事が長続きしない姉妹と、それを温かく見守る「父」という家族の姿を描いた文章である。「私」の視点を通じた描写が軸となっており、その描かれ方も丁寧であるため、心情の変化の把握を中心とした文学的な文章を読み取る力を確認する上で適切な素材文であった。

問1 本文の読解に必要な語句の意味についての基本的な知識・技能を問うている。

問2 「私」が「みんなの中にあるとされているふう」を「危険な装置」や「呪いの文句」だと考えている理由について、傍線部直前の文脈からの的確に読み取る力を問うている。

問3 「澄香」が毎日のように仕事のことを話す意味について、傍線部より後に描かれている文脈を正確に捉え、その内容を的確に読み取る力を問うている。

問4 比喩で表現されている内容について、本文全体を通して描かれている「私」の人物像を根拠としながら考察し、適切に捉える力を問うている。

問5 「私」から見た「父」の人物像と、その「父」の言葉で気持ちが楽になっている「私」の心情について、本文全体の文脈を正確に捉え、その内容を的確に読み取る力を問うている。

問6 (i) 【ノート前半】で取り上げられている「気になった表現」から、「澄香」の話に対する「私」の受け止めの的確に読み取る力を問うている。

(ii) (i)及び【ノート後半】の内容を踏まえ、本文全体を通して描かれている「澄香」の話を知る「私」の様子から、「私」のあり方についての的確に読み取る力を問うている。

第3問 テーマに即して集めた複数の資料や、レポートを書くことを目的として作成した【構成案】による、実用的な文章からの出題である。自分の意見を書くために必要となる複数の資料の情報を的確に理解する力を確認する上で適切な素材であった。

問1 複数の資料の情報を的確に読み取り、考察する力を問うている。

問2 (i) 図にまとめる活動を通して、資料を的確に読み取る力を問うている。

(ii) 資料を要約する活動を通して、資料の要旨を的確に把握する力を問うている。

問3 複数の資料を踏まえて推論する力を問うている。

第4問 院政期に成立したと考えられる物語『とりかへばや物語』からの出題である。「権中納言」によって宇治に住まわされた「女君」が兄弟の助けを借りて脱出した後の場面を取り上げている。リード文や注を参考にして古文を的確に読み取る力、また、語句や文法の知識を活用して内容を理解する力を確認する上で適切な素材文であった。

問1 本文の読解に必要な基本的な語句や文法の知識を問うている。

問2 本文の読解に必要な文法の知識を活用して、内容を理解する力を問うている。

問3 「権中納言」と「乳母」とのやりとりの内容を的確に読み取る力を問うている。

問4 本文の読解に必要な敬語の用法の知識を活用して、内容を的確に読み取る力を問うている。

問5 本文全体の内容について、本文の展開に即して的確に読み取る力を問うている。

第5問 前漢の淮南王である劉安が編著した思想書『淮南子』からの出題である。魏の「段干木」の人徳に敬意を払う「文侯」が描かれている。論理的に述べられた文章であり、漢文に用いられる基本的な知識や句法を基にして漢文を的確に読み取る力を確認する上で適切な素材文であった。

問1 本文の読解に必要な基本的な句法や漢文特有の語句の知識を問うている。

問2 本文の読解に必要な基本的な句法についての知識を活用して、文脈を的確に読み取る力を問うている。

問3 「文侯」が「段干木」を敬う理由について、漢文の基本的な句法や語句の解釈を根拠とし、その内容を的確に読み取る力を問うている。

問4 「司馬庾」が「段干木」を評価する理由について、前段落の文脈を正確に捉え、その内容を的確に読み取る力を問うている。

問5 傍線部内に含まれる漢文の基本的な句法や語句の解釈を根拠とし、前後の文脈とあわせて内容を的確に読み取る力を問うている。

問6 『呂氏春秋』の一節が意味する「文侯」が評価される理由について、多角的な視点から本文の内容の解釈を深めながら、的確に読み取る力を問うている。

3 分量・程度

(1) 設問数について

試験時間90分に対して大問は5問で、大問ごとの設問数は、第1問が6問、第2問が6問、第3問が3問、第4問が5問、第5問が6問であった。全体の解答数は38で、適切であった。

(2) 難易度について

第1問は、本文は高等学校の授業で扱う文章レベルとして妥当であった。また、設問も全体的に適切な難易度であった。

第2問は、本文及び設問中の【ノート前半】・【ノート後半】のいずれも、高等学校の授業で扱う文章レベルとして妥当であった。また、本文を読んで考えをまとめる場面を想定した問6のように、授業における言語活動につながる設問もあり、全体的な難易度としても適切であった。

第3問は、【資料Ⅰ】・【資料Ⅱ】・【資料Ⅲ】・【構成案】及び設問中の図のいずれも高等学校の授業で扱うレベルとして妥当であった。テーマに即して資料を集め、それをまとめ直し、レポートの構成を検討する場面を想定した設問は、受験者の思考力・判断力・表現力等を問うものであり、全体的な難易度としても適切であった。

第4問は、本文は高等学校の授業で扱う文章レベル、文章量として妥当であった。また、基本的な語句の知識を問う設問に加え、敬語の用法など文法の知識を活用して解答するものもあり、難易度も古文の学習成果を見る上で適切であった。

第5問は、本文及び設問中の論評は高等学校の授業で扱う文章レベル、文章量として妥当であった。また、問6のように授業における言語活動につながる設問もあり、難易度も漢文の学習成果を見る上で適切であった。

以上のように、各大問とも学習指導要領を踏まえており、分量及び難易度は妥当であった。

4 表現・形式

第1問 配点については設問の内容に見合った配点がなされていた。

〔問6〕本文の表現上及び構成上の特徴についての理解を問う出題であり、言語を手掛かりとしながら、文章の内容を多面的・多角的な視点から解釈する力を問う、という問題作成方針に合致している。

表現や構成という、論理的な文章の「書かれ方」に注目して本文全体を捉え直す学習活動につながる良問ではあるものの、問題作成方針が重視する、言葉による記録や説明、話し合い等の言語活動を意識した形式になっていないため、出題のあり方について検討いただきたい。

第2問 配点については設問の内容に見合った配点がなされていた。

〔問6〕本文を読んだAさんが考えたことをノートにまとめるという言語活動を重視した学習場面が設定されており、問題作成方針に合致している。

(i)は、本文中に二箇所ある、括弧がついた表現から読み取ることができる、「澄香」が話す内容に対する「私」の受け止めについてノートにまとめる場面、(ii)は、(i)での考察を踏まえ、複数の箇所に描かれる、「澄香」の話を聴いている「私」の様子から、「私」のあり方を考察する場面をそれぞれ想定した設問であった。(i)から(ii)へと、本文の表現を基に登場人物に対する理解を深めていくという、学習の過程を重視した問い方となっており、受験者の日頃の学習活動を踏まえたものであると考えられる。

第3問 表現や用語、図表において受験者の混乱を招くものはなく、適正であった。また、配点

についても設問の内容に見合った配点がなされていた。

〔問２〕設定したテーマに関するレポートを書くために、実社会の中から非連続型テキストも含めた、適切な資料を集めたり、資料を集めながらレポートの【構成案】を検討したりするという言語活動を重視した学習場面が設定されており、問題作成方針に合致している。また、「書くこと」の指導事項にもつながる出題の工夫が見られた。

Ｌさんが【構成案】の本論を書くために、(i)では、資料に書かれていることを図にまとめる場面が、(ii)では、資料の情報を整理して要約する場面が想定されている。このうち(i)は、テキストの内容を構造化する力を問う出題であり、学校等における受験者の日頃の学習活動を踏まえた良問であった。

第４問 表現や用語において受験者の混乱を招くものはなく、適正であった。また、配点についても設問の内容に見合った配点がなされていた。

〔問５〕問１から問４までの内容を踏まえて、本文中の言葉を手掛かりとしながら全体の要旨を捉える力を問う出題であり、問題作成方針に合致している。しかし、問題作成方針が重視する、言葉による記録や説明、話し合い等の言語活動を意識した形式になっていないため、出題のあり方について検討いただきたい。

第５問 表現や用語において受験者の混乱を招くものはなく、適正であった。また、配点についても設問の内容に見合った配点がなされていた。

〔問６〕「段干木」という人物の有徳ぶりと、官位のない「段干木」に君主でありながら敬意を払う「文侯」をめぐる本文の内容を踏まえて、本文と同じ故事を話題とした『呂氏春秋』に記されている論評の内容を理解する力を問う出題であり、問題作成方針に合致している。同じ故事を話題としながら、本文と論評とでは主題が異なっており、内容を多面的・多角的な視点から解釈する力を測ることができる良問であるとともに、高等学校における授業改善に向けて示唆に富むものであった。

５ ま と め（総括的な評価）

「新教育課程」を踏まえて、レポートを書くために必要な情報を集めて資料を整理し、自分の意見を述べるために推論する力等を問う大問が新たに加わり、五つの大問で構成される試験であった。知識の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視するとの問題作成方針に則した良問が、生徒の学習の過程を意識した場面設定も行われながら出題されたことを評価する。実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力の育成を目標とする「現代の国語」と、我が国の言語文化への理解を深めることを目標とする「言語文化」の二つの共通必修科目を通して身に付けた力を評価するのに適当な問題であり、かつ、「旧教育課程」履修者による受験に際しても、十分に学習の成果を見ることができるものであった。今後とも、本テストが高等学校での学習を通して受験者が身に付けた力を評価するのに妥当なものとして作成され、また、高等学校国語科の授業づくりに資することを期待して、意見・要望を以下に示す。

(1) 「新教育課程」に沿った問題作成がなされていた。第２問における作品を読んでノートに気になった表現を抜き出して読み取れることをまとめたり、主たる登場人物の様子が描かれた箇所を抜き出して人物像に迫ったりする場面、第３問における複数の調査結果や新聞記事を資料として整理し、自分の考えを書くために【構成案】を検討する場面、第５問における本文と同様の故事が記された別の書物に見られる人物評を考察する設定など、学習者による「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた設定のもと工夫された形式で出題されており、「現代の国語」及び「言語文化」における平素の学習活動を通して身に付けた力を評価できるものとなっている。

- (2) いずれの大問においても、本文が難易度に応じた分量となっている。実用的な文章を用いた大問が追加される一方で、従前とは異なり選択肢を4択とする設問が多く、試験時間内において、テキストの細部を検討したり全体の要旨を把握したりしながら、設問の意図を捉えて選択肢を吟味することが可能であったと思われる。第2問におけるノートは本文の表現や登場人物の様子について過不足なく抜き出されており、本文の深い理解を促すとともに適切な出題に資するものである。一方、第3問においては、レポートの作成者である「Lさん」が、どのような観点から複数の資料を収集して整理し、それらを用いてどのように文章の構成や展開を工夫しようとしているのかが、受験者にとってより明確になるよう留意することが必要であろう。設問の多くが【構成案】に関連していることから、【構成案】を資料よりも先に提示する出題のあり方もあるのではないと思われる。今後とも、二つの作品を読んで内容を考察する場面や、複数の資料を比較したり関連付けたりして整理する場面を設定した出題に際しては、受験者が設問に対して十分に思考し、判断することを通して、本文の理解を深めることができるための時間が確保されるよう求めたい。
- (3) 本テストは、「言葉による見方・考え方」を働かせ、「言語活動」を通して、生徒の総合的な言語能力を育成するという学習指導要領の趣旨が踏まえられたものであった。第1問における筆者の表現の意図を読み取ることを求める設問、第2問における内容や心情を叙述に基づいて的確に捉えるためにノートを整理する学習活動、第3問における読書の手段という現代的なテーマに関する学習課題など、授業改善の視点において大いに示唆に富むものであった。一方で、一つの題材で問題が作成されているものが多いため、複数の文章を読み比べて内容や表現の共通点や相違点を考察したり、本文の内容について別資料を参考にしながら深い理解につなげたりできるよう、素材や設問については今後さらなる工夫を求めたい。
- (4) 近代以降の文章、古典とも、高校生が読むのにふさわしい多様な題材が用いられている。特に、第3問における題材は、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させる態度を養うことを目指す高等学校国語科の目標と関連するものとして、大いに評価できる。今後も複数の登場人物の心情や人物像に迫ることができる文学的な文章、様々なテーマに関して高校生が視野を広げ、考えを深めることのできる論理的な文章、多様な形式で書かれたり、図表や写真を伴って書かれたりしている実用的な文章、文種や形態の異なる古典が素材として幅広く検討され、用いられることを期待する。出題に当たっては、素材の魅力や価値を十分に生かし、受験者が文章や資料から得た情報を多面的・多角的な視点から解釈する力を発揮できる設問が、すべての大問においてバランスよく出題されるよう工夫していただきたい。共通テストにおける出題が高等学校国語科における授業改善を促し、実社会における国語による諸活動に必要な資質・能力を生徒に育成し、我が国の言語文化に対する生徒の理解を深めることに資するものとなるよう期待する。